

平成24年度助成研究の概要

厚生労働省など、国の機関及び公益法人などの公募により採択された研究です。

本年度は、神奈川県公衆衛生協会「調査研究助成」2課題、公益財団法人 大同生命厚生事業団「地域保健福祉研究助成」1課題を実施しています。

神奈川県公衆衛生協会「調査研究助成」

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	高橋智恵子	微生物部 細菌・環境衛生G	<p>結核菌VNTR法のシーケンサを用いた結核分子疫学解析の試み及び感染経路解明による結核対策</p> <p>結核菌のVNTR法分子疫学解析は、遺伝子の増幅産物についてアガロースゲル電気泳動で実施してきた。しかし、産物の塩基サイズが1000bpを超えると判定が困難となる。これに対して、シーケンサによる解析は、正確に判定できる可能性がある。そこで、シーケンサを用いた結核分子疫学解析の正確性・再現性について検討する。さらに、感染経路解明に役立てるために、生活圏を同じくする横浜、川崎等の県内機関とのデータの共有化を図る。これらを実施することにより、県内の結核菌の流行や感染の状況の把握が可能になり、結核の感染防止などの公衆衛生対策に寄与できると考える。</p>
2	羽田千香子	理化学部 薬事毒性・食品機能G	<p>化粧品中の防腐剤メチルイソチアゾリノン及びメチルクロロイソチアゾリノンの分析法の確立</p> <p>当県には化粧品製造業者が多数所在しており、製品中の防腐剤について収去検査を実施している。しかし、防腐剤等の配合制限を定めた化粧品基準には試験法(公定法)の規定がない。そこで、本研究では、近年シャンプー等への配合が多く見られる防腐剤メチルイソチアゾリノン及びメチルクロロイソチアゾリノンを対象とし、収去検査での活用と流通製品の実態把握を目的として、効率性に優れた超高速液体クロマトグラフィー法(UPLC法)による汎用性が高い試験法を確立する。</p>

公益財団法人 大同生命厚生事業団「地域保健福祉研究助成」

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	熊坂謙一	理化学部 薬事毒性・食品機能G	<p>乱用薬物の多種多様化に対応した違法ドラッグの高感度分析法の開発</p> <p>違法ドラッグの分析法については、厚生労働省より、薬事法により規制される指定薬物を対象とした分析法が通知されている。しかし、最近では乱用される化学物質が多種多様化しており、また、極微量の指定薬物が検出される事例が報告されている。これらの問題点は、違法ドラッグ検査における迅速性と信頼性の向上への障害となっていることから、新たな高感度分析法を構築する必要がある。</p> <p>そこで本研究では、超高速液体クロマトグラフィー/フォトダイオードアレイ検出器(UPLC/PDA)法及び液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析(LC/MS/MS)法の併用による、違法ドラッグに含有する乱用化学物質の多種多様化に対応した新たな高感度分析条件を検討する。</p>